

審議会委員の意見及びその対応について【前期基本計画】

No	施策	意見	対応	答申への反映
1	全体	<p>【岩橋委員】</p> <p>全体として目配りがきいた、文字通り「総合計画」にふさわしい構成になっています。また項目の整理により、簡潔でわかりやすいものになっていると思います。データも興味深く、計画に生かそうとしている点も評価できます。審議会での意見も随所に取り入れられた点も大変好感をもちました。ただ、計画内容の重点がややみえにくいのが残念ですが、その点も、「基本計画」ですので、とにかく漏れないようにすることがまず大切だと思いますので、基本的にこれで結構かと思います。</p> <p>その上で、あとはどう実現できるかという可能性の問題だろうと考えます。その点は、計画の範疇を超えるので、他のところで期待したいと思いますが、要諦は市民とこうした計画の意味を共有できるかということでないかと考えます。その意味で、<u>市民の学び合いが、内容的にもっと大きく位置づけられてもよいのではないかと思います。</u></p>	—	4-①
2	全体	<p>【若松委員】</p> <p>とてもわかりやすく作られていると思う。</p> <p>大事なことは実践であるため、計画倒れにならないように、実践にあたる人たちが知恵を絞り合い、具体的な安を出すことが重要である。</p>	—	—
3	全体	<p>【福永委員】</p> <p>26 施策の順が見直されており、特に、施策 1 は妥当であると思われる。「政策 3 やさしさ」内の施策順を検討できないか。(例：「3-3」と「3-1」を入れ替え)</p>	3-1 の「健康・医療」は、政策 3 の各施策の基本となるものであることから、原案のとおりとする。	
4	1-1 (P18)	<p><②創業しやすい環境整備></p> <p>【松元委員】</p> <p>霧島市創業支援センターが平成 26 年 12 月に開設された事はほとんど知られていないのが現状であり、その周知を図る必要がある。</p>	—	1-①
5	1-1 (P19)	<p><④地域特性を生かした商圈の充実></p> <p>【若松委員】</p> <p>国分を中心に大型ショップが多く点在しているため、賑わいのある街を実感しにくい。駅前開発をし、モール街をつくり商店側と市民がふれあえる温かい商店街の創出をする。</p>	—	1-②
6	1-2 (P20)	<p><成果指標></p> <p>【松元委員】</p> <p>「霧島市で働きたいと思う高校生の割合の目標値は、現状値の 2 倍となっているが、現状では目標達成困難と思われる。教育機関との連携を更に推進し、高校への地元企業周知のための説明会など具体的かつ早急に対応できる施策を講じるべきである。</p>	—	1-③
7	1-2 (P20)	<p><成果指標></p> <p>【福原委員】</p> <p>高校生及び大学生の地元就職率の目標値が高く設定されているのに比べ、誘致企業の雇用者数の目標値が低い。整合性を考慮し、同目標値を高めに設定すべき。</p>	反映を検討	—
8	1-2 (P21)	<p><②企業誘致の推進></p> <p>【久米村委員】</p> <p>本市に進出している企業は圧倒的に製造業が多いため、地元就職を考える生徒の数は限られてくる。幅広い業種を誘致し、多様な人材が地元で働きたいと思える様な環境造りを求める。</p>	—	1-④

No	施策	意見	対応	答申への反映
9	1-2 (P21)	<p><①企業誘致の推進> 【鎌田委員】 工業用地の確保など、広い面積が必要である。農業の発展に配慮し、農振地域の解除等を積極的に行う必要がある</p>	—	1-④
10	1-3 (P22)	<p><成果指標> 【福原委員】 農業について強力な施策を講じるのであれば、農業粗生産額を実績以上に引き上げるべきではないか。</p>	反映を検討	—
11	1-3 (P24)	<p><③農林水産業の稼ぐ力の向上> 【久米村委員】 「ハラール認証」を市で進めては？世界に約16億人と言われるイスラム教徒の食文化の認知度が高いということになれば、海外観光客の増加にも結びつくのでは？</p>	—	1-⑤
12	1-4 (P25)	<p><全体> 【松元委員】 霧島市はSNS、ホームページの活用が乏しい印象がある。皆が見たい、楽しめるホームページの作成に力を入れて、活用されることを望む。観光の面では、交通だけでなく、国内外の方に見やすい看板の整備も必要。</p>	—	1-⑥
13	1-4 (P26)	<p><②観光素材の創出と活用> 【福原委員】 既存の観光資源に偏っている印象を受ける。手つかずの観光資源や観光ルートの開発を積極的に行い、観光客の多様なニーズに対応すべき。</p>	—	1-⑥
14	1-4 (P26)	<p><②観光素材の創出と活用> 【久米村委員】 「霧島ガストロノミー推進協議会」と連携して霧島の魅力的な食文化を国内外に発信することで「食」を観光資源に育て上げることもできるのではないかと。これにより、観光客向けの飲食店だけでなく、市民向けの飲食店にもスポットがあたり、ご当地グルメ・地域活性化にも繋がる可能性がある。</p>	—	1-⑦
15	1-5 (P28)	<p><成果指標> 【福原委員】 「日常生活で移動に不便を感じている市民の割合」の目標値をもっと抑えるべきではないか。</p>	反映を検討	—
16	1-5 (P29)	<p><①総合的な公共交通の連携の強化> 【鎌田委員】 鹿児島中央駅⇄国分駅間はあまりにも乗り心地が悪いので、中央駅までお客様を迎えに行くのが現状である。</p>	—	1-⑧
17	1-5 (P29)	<p><①総合的な公共交通の連携の強化> 【福原委員】 JRの運行本数が減るが、もっと危機感をもった取組が必要ではないか。</p>	—	1-⑧
18	2-1 (P31)	<p><③水環境の保全> 【鎌田委員】 これほどおいしい水を飲めるところは、全国的にも珍しい。このような環境を後世に残す努力をする必要がある。</p>	—	2-①
19	2-3 (P36)	<p><成果指標> 【久米村委員】 成果指標が超高速ブロードバンド世帯カバー率となっている。しかし、本市の有力な観光地である霧島温泉郷にはもともと世帯の数自体は少ないため、観光客が訪れてもネット環境が充実していないということにならないか？世帯カバー率とするよりも、地域カバー率の様にすべき。 【福原委員】 超高速ブロードバンドの整備は喫緊の課題であり、カバー率100%にすべきである。</p>	—	2-②

No	施策	意見	対応	答申への反映
20	2-3 (P37)	<p><①良質な住環境の整備></p> <p>【福原委員】 市営住宅の老朽化が進み、入居希望者のニーズに合っていないため、空き家が増えている。特に山間部の市営住宅の改修を積極的に行い、空き家をなくすことで人口減対策を図るべきである。</p>	—	2-③
21	2-3 (P37)	<p><②道路ネットワークの構築と道路施設の維持></p> <p>【福永委員】 傷んでいる市道が数多く見受けられ危険箇所が存在する状況を踏まえ、「生活道路は快適で安全な整備を行う」旨を追記すべきではないか。</p>	反映を検討	—
22	2-4 (P39)	<p><成果指標></p> <p>【若松委員】 「空き家の利活用件数」を10件にしたらどうか。</p>	反映を検討	—
23	2-4 (P40)	<p><①地域にあった土地利用の規制・誘導></p> <p>【久米村委員】 消費税の増税を前にして住宅建設ニーズが増加している中で、市内中心部の農転許可が下りずに田畑のままとなっていて、有効活用されていない場所もある。田畑を守ることも大事であるが、都市開発・宅地開発とのバランスが更に大事だと思う。人口増の足かせ・原因にも繋がっているのでは？</p>	—	2-④
24	2-4 (P40)	<p><②公園・広場等の整備と適切な維持管理></p> <p>【鎌田委員】 ボランティアによる公園施設の維持管理を推進する必要がある。</p> <p>【福原委員】 公園施設等のバリアフリー化に努める必要がある。</p>	—	2-⑤
25	2-4 (P40)	<p><③良好な景観の形成></p> <p>【若松委員】 1行目の「市民及び事業者」の市民は一般的なため、自治会に変更した方が具体化されやすいのではないか。例えば、自治会主体で美しい住宅街を作っていくなど。</p>	反映を検討	—
26	2-4 (P41)	<p><④空き家対策の推進></p> <p>【若松委員】 空き家や土地の放置については各々事情を抱えているので、本格的に調査し、対応していく必要がある。</p>	—	2-⑥
27	2-4 (P41)	<p><④空き家対策の推進></p> <p>【久米村委員】 まとまった空き家を市が一括して借り上げて、誘致企業社員への社宅に提供したり、一般市営住宅に転用するなど思い切った案を検討してみてもは？</p>	—	2-⑥
28	2-4 (P41)	<p><みんなができること></p> <p>【若松委員】 現状を勘案すると、「空き家の状況を把握し、適正管理に努めましょう」を求めるのは困難ではないか。</p>	地域住民に義務を課しているよう捉えられるため、「所有者又は管理者は、空き家の状況を把握し、適正管理に努めましょう。」に修正します。	—
29	2-5 (P43)	<p><②自助・共助を主体とした地域防災力の強化></p> <p>【福原委員】 災害発生時の対応について、行政と地区自治公民館や自治会との連携が重要であり、事前協議を行っていく必要がある。</p>	—	2-⑦
30	3-1 (P48)	<p><成果指標></p> <p>【若松委員】 「がん検診の受診率」の目標値が低い。30%に引き上げるべきではないか。</p> <p>【福原委員】 「がん検診の受診率」をもっと高く設定すべき。</p>	原案のとおりとします。 「資料2」参照	—

No	施策	意見	対応	答申への反映
31	3-1 (P48)	<p><成果指標> 【若松委員】 「自殺死亡率（人口10万人あたり）」の目標値が高すぎる。目標値は0人でよいのでは。</p>	<p>目標値は0にすべきと思われませんが、達成可能性のある目標値を設定しています。 なお、国は自殺死亡率の目標値を、平成38年に13.0以下にする事を目標値としているため、それに準じ、平成38年の目標値を13.0とし、各年度0.28減としています。</p>	—
32	3-1 (P49)	<p><①安全・安心な医療体制の充実と健康づくり拠点の整備> 【鎌田委員】 医療センターの施設整備は、まず病院本体の使命感（24時間いつでも受入可能で、充分その機能を発揮できる）を達成しないとイケない。施設だけ立派で、その機能が発揮できなかったら意味がない。</p>	—	3-①
33	3-2 (P51)	<p><全体> 【久米村委員】 本市には待機児童はないとの見解であるが、実際の保育園からの意見では希望する条件の保育施設がないため、仕方なく希望とは違う施設に預けている「隠れ待機児童」の数は多いと認識している。また、保育士も働きたいが条件が合わずに勤労できずにいる「隠れ保育士」もいるらしい。このギャップを埋めてこそ、本当の多様なニーズ合った保育の充実である。もっと調査・研究を深めて欲しい。</p>	—	3-②
34	3-2 (P52)	<p><基本事業の方向性> 【若松委員】 きょうだい数も少なく、地域の子どもの数も少なく、子育てのモデルも身近にあまりない中で育ち、また、身近に子育てを支援してくれる身内のいない若い親たちは、大きな子育て不安を抱えている。 乳幼児期から思春期頃までの子どもの発達についての知識を持っていることは、子育て不安を小さくすることに繋がるので、保育・教育施設と連携して子ども理解に繋がる親支援をしていく必要がある。 また、子育て支援は、母親の就労や経済的な支援に偏りがちだが、多忙による親子関係の希薄さからくる子どもの心理的な問題など、もっと子どもの育ちの立場に立った支援が必要である。</p>	—	3-③ 3-④
35	3-3 (P55)	<p><①介護予防の推進と高齢者の生きがいづくりの充実> 【福永委員】 次の文言を追記すべきではないか。 →高齢者が自立して健康で生きがいをもって過ごすために、各種公共施設の利用しやすい環境を作ります。 ※例えば、施設面の改良や料金</p>	—	3-⑤
36	3-3 (P55)	<p><③高齢者の居住の安定の確保> 【福原委員】 養護老人ホームは、個室でない等の理由により、入所者が減少しており、施設の老朽化を改善することが急務である。</p>	—	3-⑥
37	3-3 (P56)	<p><④住民参加と互いに支えあう地域福祉の推進> 【福原委員】 独居老人等への地域ぐるみでの声かけ運動やサポート体制の充実を更に図るべきである。</p>	—	3-⑥
38	3-4 (P57)	<p>【若松委員】 障害、障がいの2つが使われているので、どちらかに統一する必要がある。</p>	統一化を図ります。	—

No	施策	意見	対応	答申への反映
39	3-4 (P57)	<p><成果指標> 【若松委員】 「障がいがあることで嫌な思いをしたことがある障がいの割合」の目標値は0にすべきでは。</p>	目標値は0にすべきと思われませんが、達成可能性のある目標値を設定しています。	—
40	3-4 (P57)	<p><施策の現状と課題> 【若松委員】 「市民の障がい者に対する理解が深まっていない」と記述されているが、大人がノーマライゼーションやインクルージョンの理念を理解し、その精神が身につくとは考えにくいため、特別支援教育のみならず、子どもの頃から学校と連携し、しっかり教育していくことが重要である。</p>	—	3-⑦
41	4-1 (P63)	<p><成果指標> 【若松委員】 「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」の目標値は70%程度に引き上げるべきではないか。</p>	反映を検討	—
42	4-1 (P64)	<p><①夢実現のための学力の向上と個性を育む教育の推進> <②豊かな心の育成と個性を生かす支援体制の充実> 【若松委員】 親の子育て・教育に対する意識や姿勢は大きく関係するので、「親（保護者）の協力を得る」を適当なところに追加すべきではないか。</p>	反映を検討	—
43	4-1 (P65)	<p><みんなができること> 【久米村委員】 「一家庭一家訓を決めて、子どもをほめて育てましょう」 「地元企業への就職をすすめましょう」とあるが、ここまで踏み込んだ提言は必要ないと思う。各家庭で教育の仕方はそれぞれであり、厳しく育てたいと思う親もいると思う。 また、地元企業への就職してもらうことは大事であるが、それは子どもが自ら選択することが大事であり、親が決めることではない。提言を見直すべき。 【鎌田委員】 みんなができることをさらに促進し、地元企業への就職を強化していく必要がある。</p>		—
44	4-2 (P66)	<p><目指す姿> 【岩橋委員】 政策4として「～育むまちづくり」とあるにもかかわらず、社会教育で大切な「地域づくりへの学び」のが抜けているとまではいいませんが、視点として弱いように思います（因みに、国の政策においても「地方創生の中核として社会教育が重要」と位置付けられています）。 第二段落の「市民全体の学び」の中に入れるか、新たに段落を設けるかして「まちづくりの梃子として社会教育を活発化する」といったような内容を盛り込むことが必要と思われる。</p>	—	4-①
45	4-2 (P66)	<p><施策の現状と課題> 【岩橋委員】 上記の点と同様に、「市民が学習しやすい環境づくり」や「歴史文化を活かす地域づくり」ととどまらず、「地域課題解決の学習を通しての地域づくり」としても学習を大きく位置づけることを提案します。そのことが総合計画を市民と共に実施していくための要となると思うからです。</p>		4-①

No	施策	意見	対応	答申への反映
46	4-2 (P68)	<p><基本事業の方向性> 【岩橋委員】 上記と同じ理由から、③あるいは④に「地域課題解決の学び合い」の大切さを文として挿入するか、あるいは新たな項目立てをするかができるいいと思います。 ③「利用しやすい学習環境」の具体的な内容入れることを提案します。例えば、「公民館など社会教育施設を利用しやすく・・・」「社会教育職員の配置」などが入れることができれば、素晴らしいと思います。</p>	反映を検討	—
47	4-2 (P68)	<p><③自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実> 【福原委員】 公民館講座が以前と比べて減少しているとの声を聞くため、市民ニーズに積極的に対応すべきである。</p>	—	4-②
48	4-2 (P68)	<p><④ふるさと愛の高揚へつなげる文化財の保存・継承と活用> 【福原委員】 郷土芸能保存会に対し、保存経費の支援等を行うべき。</p>	—	4-③
49	4-3 (P70)	<p><成果指標> 【若松委員】 全体的に上方修正すべきではないか。</p>	反映を検討	—
50	4-4 (P72)	<p><全体> 【鎌田委員】 2020年かごしま国体を見据えて、市民のスポーツ熱を高める必要がある。</p>	—	4-④
51	4-4 (P73)	<p><基本事業の方向性> 【若松委員】 健康維持が益々大事な高齢化社会にあって、設備がしっかり整っている運動施設に行かなくても身近な公園や遊園地などで、散歩のついでに少し運動ができるような大人も利用できる健康遊具を設置することは有効である。</p>	—	3-⑤
52	5-1 (P75)	<p><全体> 【久米村委員】 自治会の加入行為が市民の町づくりに参画する第一歩と考えるが、自治会加入率が60%台ではさみしい。自治会の役割を広く市民が知る様になれば自然と加入率は上がっていくものとする。自治会に加入した場合のメリットを作るなど工夫するのはどうか。 【鎌田委員】 自治会加入率が62.3%なのはさみしい。せめて80%程度の加入があってよいのでは。 【福原委員】 自治会組織の重要性や活動を推進していく上で、もっと高めの数値目標を設定すべきではないか。</p>	—	5-①
53	5-1 (P75)	<p><成果指標> 【福原委員】 「まちづくりに活動に参加している市民の割合」については、地域活動の重要性を踏まえ、もっと高めの数値目標を設定すべきではないか。</p>	反映を検討	—
54	5-1 (P76)	<p><①市民活動の支援と協働の推進> 【福原委員】 中山間地域の自治会は、過疎化と高齢化社会で組織の維持が困難な状況が到来するので、自治会の合併に向けた施策が必要と思われる。すでに支援策を講じている自治体が増加している。</p>	—	5-②
55	5-2 (P77)	<p><成果指標> 【福原委員】 「審議会等への女性登用は、担当課のやる気次第で登用率を引き上げることが可能であるため、もっと高めの数値目標</p>	反映を検討	—

No	施策	意見	対応	答申への反映
		を設定すべきではないか。		
56	6-1 (P86)	<p><成果指標> 【鎌田委員】 「市民の意見や実態が市政に反映されていると認識している市民の割合」は現状値が低すぎるので、更なる努力が必要である。</p>	—	6-①
57	6-1 (P88)	<p><③市民と行政による情報の相互活用> 【若松委員】 市民に様々な情報が伝わっていないことが多いように感じるため、人が多く集まるような場にポスターを張るなどの様々な創意工夫が必要である。</p>	—	6-①
58	6-1 (P88)	<p><④議会運営の支援> 【福永委員】 長が策定する総合計画に、議決機関である“議会”に係る基本事業が掲載されていることに違和感があるが、掲載すべきと判断されたのであれば、次の文言を記載すべき。 →議会情報を広報誌、インターネット、ケーブルテレビ等で広報します。 →議決機関としての議会の意思を尊重した市政運営を行います。</p>	反映を検討	—
59	6-2 (P89)	<p><全体> 【鎌田委員】 更なる市の発展のため、成果向上余地の高い事業に積極的に投資していく必要がある。</p>	—	6-②
60	KIRISHIA みらい プロジェクト (P92)	<p>【鎌田委員】 「訪れたいまち」、「住み続けたいまち」、「働きたいまち」の実現に向けて、できる事から始める必要がある。特に、高校、大学の地元就職率50%に向けて各機関で連携をとって、大いに進めていくべきである。よくできていると思うが、実現することは大変厳しいものもあるため、みんなで協力して進める必要がある。</p>	—	—